

「信州職人学校」受講生 伝統の技訓練

塩尻

伝統的な建築技術の継承を狙いに県建設労働組合連合会（松本市）が開いている「信州職人学校」は6日、受講生が改修してきた塩尻市宗賀の神社「滝社」の説明会を現地で開いた。講師の建築会社社長三浦保男さん（59）＝塩尻市＝が、改修前の状況や改修方法を紹介、氏子や受講生ら20人余が聞いた。

滝社本殿は、諏訪郡下諏訪町出身の宮大工、立木音四郎種清（1883?～1908年）が1896（明治29）年に建立。本殿を覆う軒堂と本殿に続く拝殿はその後、別人によって建てられたとみられるという。

氏子総代会長の成田昭広さん

傷み激しい神社を改修



滝社の拝殿の一部を改修する信州職人学校の受講生ら

（63）によると、十数年前から拝殿の雨漏りなど傷みが激しく、氏子でもある三浦さんに相談。

信州職人学校が実技訓練の一環で改修を担うことになり、受講

生の大工8人がことし7月から作業してきた。材料費約400万円は氏子総代会が寄付を募った。

この日は信州職人学校による作業の最終日。屋根のふき替えなどをした後、三浦さんが作業内容を説明した。拝殿の屋根の腐食している部分を新しい木と入れ替えるなどした他、建物の傾きも直し、ほぼ7割の作業を終えたという。「あと数年放置していたら屋根や軒先が落ちていた」と三浦さん。今後は三浦さん経営の会社が引き継ぎ、10月末まで軒堂の屋根などを改修する。

氏子総代会は12月9日、関係者を集めて完成を祝う予定。成田さんは「懸案だった雨漏りが改修できてほっとしている」と話した。